

平沢復興大臣記者会見録

(令和2年12月24日(木)15:30~15:39 於)ひろの水産会館
ウニーク2階研修室)

1. 発言要旨

復興大臣の平沢勝栄でございます。今日は岩泉町、田野畑村、それから普代村、野田村、久慈市、洋野町を訪問させていただきまして、首長さん等に御挨拶させていただき、あわせて被災地の復興の状況についていろいろ御説明をいただいたところでございます。共通して各地で皆さんが言っておられたのが人口減で、これを何とか元に戻して、賑わいのある街づくりをするというのが大きな課題であるということ、それから漁獲が減少していると、特にサケ、こういったこともありまして、こういった産業の生業(なりわい)の復活に是非支援をしてほしいと、こういったような御要望がございました。

最後にこの洋野町をお訪ねしたんですけれども、洋野町の町長さんは、この地では一人の犠牲者も3.11のときなかったと。それについてなぜですかとお聞きしましたら、普段の訓練が原因じゃないですかと。普段、常に想定して訓練をやって、特に消防団の皆さんは先頭に立って一生懸命頑張ってくれていると、そういったことが原因じゃないですかと、こういったようなお話でございました。

それから要望の中で、特に久慈の市長さんからは、防波堤の着実な整備、それから再生可能エネルギーの普及に向けた送電網、これの強化、これについては是非特別な御配慮をいただきたいと、こういったようなお話がございました。

私のほうからは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 先ほど洋野町長とのお話の中でも少し触れられましたけれども、三陸沿岸道路が3月にほぼ開通、一部も来年内には開通するということで、高規格道路がなかったこの沿岸の地域にとっては大きな変化になると思うんですけれども、三陸沿岸道路、復興道路の完成で期待される効果についてお話しただければと思います。

(答) まずは予定どおり年度内というふうに言っていることについては、年度内にしっかり完成できるように努めていかなければいけないと思います。この地区は非常に交通の便が大きな問題であったわけなんですけれども、もし道路が完成すれば、非常に交通の便が良くなるということで、それが往来とか、あるいはいろんな物資の配達とか、そういったいろんな面で大きなプラスになるわけで

すので、その結果としてこの地域の生業がもっともっと活発になり、そして地域の方の生活がもっと便利になって、そして人口も増えて、元気なまちづくりが進んでいけばいいなど、それを期待したいと思います。

(問) 続けてもう1点。防潮堤等のハード整備は概ね完了したところだと思っておりますが、先ほど生業再生という言葉もありましたけれども、今後10年間でいったん完了するような、そういった補助事業もあるとは思いますが、そういった中で、今後地元の企業を支援する中でどのような仕組みが必要というふうにお考えですか。

(答) まだ痛手から回復していない東北地方の企業が数多くあるわけですので、そういった企業に対しては、もちろん資金的な援助もごさいますし、あわせて販路の拡大とか、そういったことについて私たちも一生懸命お手伝いをさせていただきたいと。

そして、そのための場合によってはマッチングですね。要するにそういった品物を欲しがっているところ、それからそれを作っている東北地方の会社、そういったところとのいわばマッチングというか、接点をつくってあげて、そして双方にとってウィンウィンの関係になるように、今もやっていますけれども、これからもそういったことに力を入れていきたいということで考えております。

(問) 先ほど大臣のほうも生業の再生ということでおっしゃっていたんですけれども、現在世界的に新型コロナウイルスのほうが大変拡大しております、それに伴いまして、再建を果たした事業者さんがこれから事業を軌道に乗せていこうというところで、大きく影響を受けている形になると思うんですけれども、被災地に関連しまして、新型コロナウイルスのほうで事業再生、ローンの返済などに影響が出ないように、国のほうで、再建事業者のほうで改めて何か支援策というのを検討していくことは検討してらっしゃいますでしょうか。

(答) コロナウイルスの影響はいろんなところに出ているんですけれども、もちろん被災地のほうにも出ているわけで、特に被災地の方はこれを大変深刻に受け止めておられるんじゃないかなと思います。コロナウイルス対策につきましては、先日の12月15日に第3次補正予算が取りまとめられましたけれども、その中で資金繰り対策なども施策に盛り込まれたところのごさいますので、そういったことを通じまして、適切にそういった企業の皆さん方を応援していきたいということで考えております。

(問) 今日ずっと視察になられたと思うんですけれども、3.11から10年になります。改めて10年ということで、ご覧になられた感想と

いうのはいかがでしたか。

(答) 10年に来年の3月になるんですけれども、皆さん本当に一生懸命頑張っておられて、その結果としてずいぶんハードの面は整備されたなど、かなり立ち直ってきたなどということ考えておりますけれども、ただソフト面で、被災された方の心のケアとか、あるいはそういったコミュニティの形成とか、そういった面ではまだまだこれからだなど。それから被災地を離れた方がまた戻ってくれるためにはどうしたらいいかということも考えていかなきゃならないわけで、やることはたくさんまだ残っているなど。

したがって、10年たちましたけれども、この大災害を、要するに過去のものとするんじゃなくて、これを私たちは絶対に風化させることなく、この教訓、いろんな事実関係の将来への伝承も大事ですけれども、あわせて今まだ残っている、やらなきゃならないことに一生懸命取り組んでいきたいということ考えております。

(以 上)